〔内部資料〕

労働の解放をめざす労働者党 略称 **労働者党**

伊藤恵子さん 比例区予定候補 を国会へ

働く女性を代表して頑張ります

差別労働、長時間労働の一掃をめざして

伊藤さんに期待します

派手さはないが、コツコツと粘り強くやり抜く人。これが数年間、福山で共に活動してきた伊藤さんです。

事実、伊藤さんの粘り強い働きかけで『資本論』学習会が軌道に乗り、案内が全国紙を含めて常時、数紙に掲載されるまでになりました。学習会や会報での分かりやすい丁寧な報告も初学者の多い参加者には好評で、伊藤さんのこうした姿勢は、長年、郵便局や介護労働などの現場で真面目に働き続け、頼れる同僚であるばかりか、職場の労働組合で、労働条件の改善を勝ち取る為に、誠実に闘ってきた中で、培われたものです。

また伊藤さんは原則的で、本当に信頼できる仲間です。今回の立候補も、化学物質過敏症という難病を抱えながら、差別労働の一掃や同一労働同一賃金の実現を訴える女性候補者がどうしても必要だ、自分が手を上げるしかないという強い思いがありました。有権者、労働者の半数は女性です。働く者の代表の政党であるなら、選挙闘争でも女性が先頭に立つべきで、それが労働者の闘いのあるべき姿であると考えてのことです。

このように伊藤さんは、労働者・勤労者の代表として闘うに相応しい人です。期待しています。（D）

伊藤さんの略歴

- 1947年京都市に生まれる。明徳商業高等学校を卒業後、日野自動車販売店や郵便局の事務職、訪問介護ヘルパーとして働く。70年代中頃、新聞配達員の労働組合に参加。郵便局では全逓労働組合の支部婦人部役員を担う。
- マルクス主義労働者同盟の『共産党宣言』の学習会で科学的な世界観に衝撃を受けて加盟。その後の神奈川での選挙闘争に参加、工業地帯での活動を希望して兵庫県に移る。80年、86年の兵庫での選挙を闘う。
- 89年参院比例区と90年衆院兵庫2区で立候補。広島県福山市での党活動を経て東京に拠点を移し、労働者党唯一の女性予定候補に。

労働者党と伊藤恵子を応援する会 〒179-0074東京都練馬区春日町1-11-12-409
電話 03−6795−2822 メール 2019itou.keiko@gmail.com

伊藤恵子さんとフェミニスト

比例区予定候補・林からの励まし

我が労働者党は、比例区特定候補に伊藤恵子さんを選びました。比例区で2%（100万票強）の得票があれば、彼女は晴れて働く女性労働者の代表として国会の赤じゅうたんを踏むことができます。

しかし女性の地位改善や女性の解放――解放にも色々あって、どんな解放かが問題ですが――、「男と女の対立」という図式から出発して、女性の解放を論じるフェミニスト――彼らはみなブルジョアやエリートの出です――を取り上げつつ、我々の女性解放の理論や闘いを語りたいと思います。

今年の東大の入学式にかつてのマルクス主義フェミニズムなる理論を携えて、〝経済学〟とりわけマルクス主義経済学を援用して、主婦労働と主婦の階級的な立場を擁護する論陣を張って、ブルジョアやプチブルから喝采を浴び、出世の階段を駆け上がるための令名ときっかけを手にした上野千鶴子が登壇して、次のように喝破しました。

「あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに使わないでください。恵まれない人々を貶めるためにではなく、そういう人々を助けるために使ってください」

その言や良しですが、しかし今や彼女はエリートとして、弱い人や貧しい人たちの対極にある人間で、こんな挨拶のできる人でしょうか。

上野はかつて〝主婦〟の地位を擁護し、正当化するフェミニストの雄でした。彼女は従来の〝正統派〟マルクス主義は主婦労働を正当に評価せず、非生産的労働として卑しめてきた、しかしこうした理論は主婦労働の意義を否定し、女性を軽蔑し、愚弄するものであって、マルクス主義の理論を正しく援用するなら、主婦労働の、したがってまた主婦労働者の正当な意義と役割を評価すべきであるといったものでした。

しかし主婦労働は〝主人〟としての夫や家族との関係においてのみ主婦労働であって、私的で、狭隘な関係の中でのみ意義を持つにすぎず、したがって、社会的で、客観的な評価を持ちません。別の形で言うなら、主婦労働の担い手としての女性は、自らの〝労働〟に対して、社会的に評価された支払い（賃金）を受けとりません。

つまり主婦と夫の関係は社会的なものではなく私的なものです。主婦と夫との関係は女性の男性への依存と従属の関係、奉仕の受容者と奉仕の提供者の関係、人格的な優越と従属の関係、平たく言うなら一種の奴隷主と奴隷の関係です、つまり主婦が〝家庭奴隷〟である所以です。こうした関係の本性は、夫婦の間の関係で愛情や相互信頼が無くなった場合や、離婚の場合などには端的に現れます。

そして上野の〝えせ〟マルクス主義の破綻は、性風俗に従事する女性〝労働者〟や性を売る女性（〝売春婦〟等々）の存在やその〝（生産的）労働〟を弁護し、正当化する〝理論〟において、その究極的で、卑しく、反動的な観点に行きついてしまいました。

上野はかつて1990年代、〝性労働（売春等々）〟を主婦労働や個人的サービス労働と同じ、生産時労働であり、堂々と売られるべきであり、それが非難されるのは強制で売られるからだ、〝自由化されれば「マッサージ師と変わらない一専門職になる」〟などと論じて、当時流行となり、繁盛し始めた〝風俗産業〟

【中面に続く】